

最初にちょっとしたニュースです。今月このHome Concert 2000の開発者であり、ピアニストでもあるシンシナティ大学教授フランク・ワインストック氏が来日して神戸のポートアイランドで演奏会をします。

日時：2003年6月14日（土） 午後2時～3時30分

場所：神戸市中央区港島中町6-3-2 田崎ホール

スポンサーが田崎真珠（株）なので入場無料ですが、先着順満席になり次第締め切ります。

演奏内容はベートーベンのピアノソナタ「ワルドシュタイン」、シューマン「アラベスク」、シューベルト「即興曲」等の他に HomeConcert を使ったモーツァルトのピアノ協奏曲二短調の第1楽章が演奏されます。

この有名な協奏曲が彼のピアノが導き出すテンポやダイナミクスに従ってオーケストラ伴奏で演奏されるのを日本で見られる滅多にないチャンスです。勿論メインになるのは彼のピアノだけによる独奏ですが、小さなホールですので満席の場合はご容赦下さい。

★音楽教育における応用-2

授業で使う。こんな当たり前なことをと思われるでしょうが、歌唱や器楽の伴奏に用いる応用です。

現在市販されている教材メディアには、①楽譜、②テープなどのアナログ音素材、③CDやDVD等のデジタル素材、④MIDIデータ、⑤VTR等のビデオ教材などがあります。

①についてはすでにPDF化されたものがインターネットで入手できるものもあります。②のアナログ系のものや⑤のようにデータ量が大きいものを除けば大体ネット経由で入手可能になっています。①をスキャナーで読みとって④に変換するソフトもまだ完全ではありませんがかなり精度が高くなっています。今月25日に発売される Siberius2 は6万円程度ですがこの機能が強化されたアプリケーションです。この Siberius2 につきましてはこの HomeConcert シリーズ終了後次回から連載予定をしていますが、Finale のデータもそのまま利用でき、楽譜中に見えないMIDIデータを埋め込みますので演奏用シーケンサとしても本業のノートーションと同じくらの高性能を発揮します。これについては次回以降をお楽しみに。

さて、どんな方法でも手元に伴奏用のMIDIデータを用意します（当然ですが小節管理のできたもの）。MIDIシーケンサは16というチャンネル数にこだわらなくても最近ではポートを増やす事で16×ポート数のチャンネルが使えます

が、コンピュータ内蔵の音源（いわゆるソフトシンセ）を使用する場合はあまり無理をしない方がよいでしょう。Home Concert 2000（以下HC）は任意のチャンネルを主として他のチャンネルのテンポをそれに従わせることができますが、やはり若い番号のチャンネルを主にする方が安全です。しかし、ものは考えようで16チャンネル目に近いほど発音が遅くなるというMIDIの宿命を逆手にとって主チャンネルをそちらに設定することで、指揮者がすこし前押しの棒を振るのと同じような効果も得られます。

歌唱の伴奏の場合、特にフェルマータの長さなどが市販のデータでは機械的で不自然なことが多いので、このフェルマータの次の音に「Wait for Soloist Mark（ソロの演奏を待つ）」という例のマークを入れておきます。さらに1番2番と言うように歌詞が何番ある場合は最初のテンポに戻す必要がある場合もあります。この場合「Restore Tempo mark（テンポを楽譜通りに戻す）」というマークをそれぞれテンポをリセットする場所にマークします。「Wait for Special Signal（特別な信号を待つ）」は鍵盤上の特定のキーや特定のMIDI信号を受け取った時だけ演奏を開始するという、例えば「語り」の部分の最後などにマークして、「語り」が終わった所から演奏を再開させる場合などに用いることができます。伴奏として使うチャンネルがステレオであれば「場」の広がりも出て良いでしょう。

マーキングが済んだら、ミニキーボードでも何でも良いのですが、主チャンネルに設定したMIDI信号を出せる楽器を接続します。HCの側でそのチャンネルを主チャンネル（ソロチャンネル）として設定するのを忘れないように。この場合そのMIDI楽器が出力するMIDIチャンネルにHCは自動的にチャンネルを合わせます。

後は最初の音が鳴れば自動伴奏が開始されますが、ソロトラックの音が外に漏れると不都合な場合はそのチャンネルの音量をミキサー画面で下げておきます。

子どもが合奏や合唱の指揮をする時、教師がその子どもの指揮に従って伴奏を弾けば当然の事ながら市販の伴奏ソフトが生き生きとした伴奏になります。逆に子どもが伴奏パートを簡単な演奏動作で弾けるように主パートを作っておけばワンフィンガー・プレーヤーでも自由なテンポやアゴーギグで伴奏ができるので、実技の苦手な子供たちも喜んで伴奏をしてくれることでしょう。昨今、教育現場のコンピュータテクノロジーはマウスを使った音符打ち込みの教育が主流ですが、陰に隠れたコンピュータが授業を楽しくさせるこのような試みも盛んになって欲しいものです。